東京龍門会報

発行所
東京龍門会

発行人
若松文保

5年目を迎えた東京龍門会

去る五月二十八日、品川区上大崎にある三州クラブで、母校の創立八十周年を迎えて東京龍門会の本年度総会が開かれました。今年で五回目、回を重ねるごとに参加者も増え、今回は約二〇〇名近い同窓生が集まって盛会でありました。お互い昔日の思い出に花が咲き、これからの健康と発展を祈りながら散会しました。

なお当日は郷里から同窓会長、母校の校長それに旧恩師のご臨席をいただきました。ここに会長はじめ皆さんのご挨拶の概要をお届けしましょう。

東京龍門会は　オンジョモンの会ではありません

――若い人達で大きく育てよう――

会長　若松文保（旧中昭二辛）

今日はお天気もよく、皆様大勢お集りいただきましてありがとうございました。

今回は、旧制中学の方が六十名、女学校の方が二十五名、高校が約百名で、二百名近い会員の方がお集り下さる予定でございます。

東京龍門会も、毎年定期的に開くようになりましてから、今回で第五回目の同窓会でございます。久しぶりにお会いなさった方もおられましょうし、お互いに懐しさもひとしおのことと存じます。今日は、郷里の方から、同窓会長の佐藤博士はじめ、母校の白浜校長先生もお見えになりました。また、恩師の柴田先生と上松先生もお見えいただきましたし、第六回中学卒の八十八才の黒川大先輩も見えておられます。黒川先輩の元気なお顔を見ておりますと、我々も先輩と同じまで働けるなら、まだ後だいぶん働けるなと勇気づけられ、ありがたいことと思っております。

今年は、母校の創立八十周年でございまして、私も今申しあげました黒川先輩や、隣りの浜田尚友さんとか、酒勾鴻一さんその他大勢の方々と母校に帰えりまして、盛大な八十周年記念行事に参加いたしました。その時に感謝状(写真)をいただいて来ました。皆さんのご協力によって―東京は八十周年記念に四百万円の寄附を割り当てられましたけれど―それに近い寄附が集まりました。予想以上のものが集まり盛大な八十周年記念が行なわれました。

特に海音寺潮五郎先生の碑文ができましたり、或いは戦争の末期になってから爆死された校友の十五人の方々の碑文ができまし

総会会場風景

感謝状

東京支部殿

母校創立八十周年記念事業
行事の推進に当り貴支部に於
れては支部一体となって誠心誠意
絶大なる御協力を賜わり記念事業
行事完遂をみるに至りました。
よってここにその労を謝して感謝状
を贈り感謝の意を表します。
昭和五十二年四月二十一日
鹿児島県立加治木高等学校創立八十周年
記念事業行事合同委員会委員長
佐藤八郎

たり、また若人の像もできました。それには前々校長の川畑先生が非常な名文を書いておられます。それを本会員で本日出席されている、二十八回卒の法元六郎先生が全部デザインされ、学校の懐しい校門のイチョウの木の前にできた新しい庭に建てられて、庭も非常にきれいになっております。また今回校長先生がその写真を持って来て下さいましたので、後で見ていただきたいと思います。

今回は各方面において活躍され、また現在も非常に活躍されつつある数多くの先輩並びに後輩の同窓の皆さんが、こうして、一同にお集りになって、同窓会を通じてお互いに所在がわかり、毎年の同窓会で相まみえて親睦をはかる中で、心のふるさととしてのきずな生まれ、ひいては仕事の上でも役立つこと思っております。我々みたいに年をとりますと、どうも古い友達が懐しくなるとか、特に多情多感な中学・高校時代に過ごした同窓生は、わけても懐しく思うものでございます。そうかと言って我々年寄りばかり集ってみても仕方がありませんし、今回は女学校の方々にも大勢ご出席いただいております。女学校の方々はそろそろ暇になったでしょうから、婿さん探しや、嫁さん探しの仲人でもして同窓のために大いに力を貸してもらいたいと思っております。また高校の若い人達は、同窓会はオンジョセンの集りだと思はないで、若い方々にも是非参加してもらいたいと思っております。我々の頃のように卒業生が一二〇人から一三〇人といった頃と違いまして、この頃のように約五〇〇名もの卒業生では、同窓会としてもあまりピンとこないかも知れませんが、東京は龍門会ががっちりしておりますから、この会に参加することで、郷里の同窓生であることの良さを、より感じてもらえるようにお迎えしたいと思っております。

今年で五年目になりますが、我々で同窓会の受け皿をつくりましたから、これからは後輩の高校の方々で、この受け皿を大きく育てていってもらいたいと願うものでございます。

なお当初、本年度は二年ぶりに本会の名簿を作成することでお知らせしておりましたが、八十周年の母校の名簿では関東在住者は約二、三〇〇名で、現在員数(約一、二〇〇名)はその約半数であることが分りましたので、この一年間でよくその実状をつかんで、五三年度にきちんとした本会の名簿を作成することに変更しましたのでご了承下さい。つきましては年会費の納入につきましても、どうかよろしくご協力をお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

創立八十周年を迎えて!!

同窓会長　佐藤八郎（旧中昭二卒）

私は同窓会長を仰せつかっております佐藤八郎でございます。

中学の二十六回卒業で、若松会長やら、浜田尚友さんたちと同期であります。今日は東京龍門会の総会にお招きをいただき、皆さま方にお会い出来てこんなに有難いことはございません。見廻しますと、知った方々も見え懐しく思っております。また、恩師の柴田先生や、上松先生にもお越しいただきまして、それから黒川大先輩もお見えになっておられます。皆さん方が、非常に元気で、日本の真中である東京でご活躍、ご発展なさっていることを、私は非常にうれしく思う次第でございます。

この四月二十一日に、我々の加治木高等学校の創立八十周年記念式典を、皆様方のお陰で目出度く終了いたしました。当式典の日には、東京からも若松会長以下沢山お見えいただきましたし、また、記念行事の一環として、今日ここにお見えになられます法元六郎さんの手になる青年の像だとか海音寺潮五郎氏の文学碑、或いは戦時中に十五人の学徒が爆死された慰霊碑等の除幕式が行われました。続いて海音寺潮五郎先輩の〝西郷南洲と革命〟と題しての記念講演がありまして、その後賑やかな祝賀会が行われたわけでございます。

この記念行事につきましては、東京龍門会の皆様方に一方ならぬお世話になりましてこの行事がスムースに、しかも非常に立派に出来ましたことを、同窓会長として心からお礼を申し上げます。最初は赤字を出すのではないかと思っていたのでございますが、お蔭をもちまして、皆様方のご協力によって、順調に寄附も集まり、むしろ余りまして、その残金は皆様方のご了解を得て、それを学校の教育の振興資金に—まだ具体的には決めておりませんが—そのような方面に使わせてもらい、後輩の生徒のために役立てたらという気持でおりますのでご了承いただきたいものでございます。

加治木高校も、八十周年記念行事を行いまして、今では生徒の気分も変わってきまして自分たちで大いにやろうという意気が

“西郷南洲と革命„と題して講演中の海音寺潮五郎氏

現われてきておるようでございます。これはやはり先輩の気持が後輩の生徒に伝わってきているのではないかという気がいたしまして、我々は、八十周年という行事をやって、非常によかったと考え、喜んでおる次第でございます。

これからは、日本も高度成長時代から、低成長時代になり、いろいろな問題をかかえ、大変な時代になってきているように思いますが、どうか東京の皆様方が中心になって頑張ってもらい一層発展していきますように祈っています。そしてこれからも若い諸君が高校を卒業して東京に出てきますので、先輩の皆様方に育成していただきたいと願う次第でございます。それには、この東京龍門会が核となって、活躍していただきますことを念願しております。終りに皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、私の挨拶といたします。

先輩に恥ない後輩育成のために！

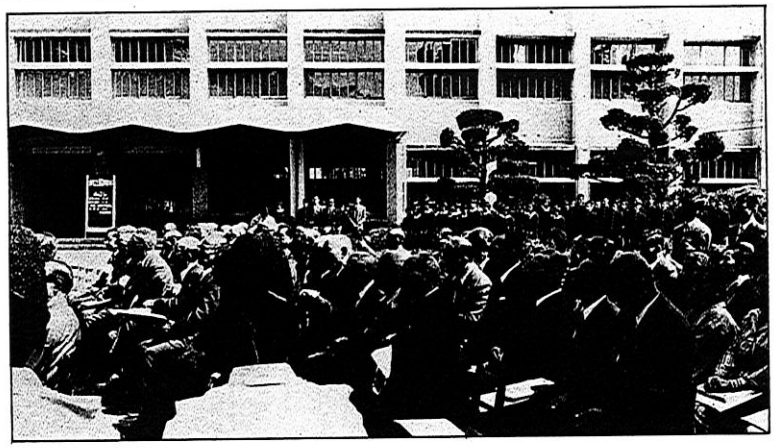
加治木高等学校長　白浜　伝（旧中昭一四卒）

ただ今ご紹介いただきました白浜でございます。去る四月一日から母校の加治木高校の校長として、今までは外にあって加治木高校を見てきましたが、今は内にあって加治木高校の生徒の指導につきまして、自問に答えたり、問い直したりしているところでございます。実は昭和二十一年から二十九年までの八年間母校で教鞭を執らせていただきまして、本日は顔見知りの方も沢山おいでのようでございます。

私は県の教育委員会におりましたが、去る四月教育長の方から話がありまして、加治木高校へまいることになりました。何分にも創立八十周年と申しますと、鹿児島では明治三十年の四月二十日が鹿児島尋常中学校第一分校の川内で、二十一日が第二分校の加治木でございます。一日異っておりますが、創立記念日が四月二十日に川内高校では出来ませずに、十月に延ばしてございます。それで開校二番目でありますが、加治木中学、高女、高校合わせての八十周年の記念式典が先に実施されました。そういうことから母校の校長となるに当りまして、私は非常に気にかけていたわけでございます。三月の末までは外にあって、言われる通りに寄附をしておればそれで済んだわけでございますが、どうもそうはいかなくなりまして、記念式典を大いに推進しなければならない、えらい役目をおうことになりましたが、同窓職員も多くて校内のまとまりも良く、教職員一致しておりましたので大変やり易かったと思っております。当日は知事、議長も皆八十周年記念式典への出席を心よく引き受けていただき非常に盛大でございました。

ところで五月になりましてから、県内各地の学校で五十周年や六十周年の記念式典を行なう学校が沢山ございまして種々問い合わせがありその指導に大変忙しいことでございました。と申しますのは、赴任早々でございましたので細かい事が余りよくはわかっていなかったのでございますが、幸いにして教頭が詳しく承知しておりましたし、同窓職員が十数名おりまして、身代わりに良く指導していただくことができました。

現在生徒は一、五〇〇名でございます。そして栗野、吉松、横川、牧園、溝辺それに

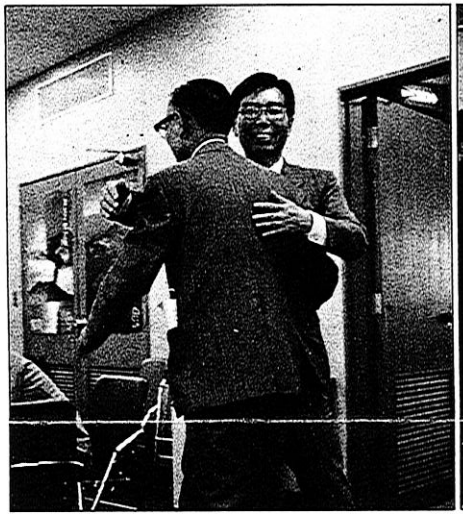


昔日の面影はどこえやら、立派な校舎を背にしての除幕式

隼人、加治木、姶良、蒲生町　区でございます。それから職員は、常勤　○名で、非常勤が十名で計八十名でご　ます。非常勤と申しますと校医さんも　れておりますが、眼科の方を除きまして、校医さんは全部高校の卒業生の方々を無理してお願いいたしました。薬剤師は牧野原におられる方で、この方も同窓生ですので無理難題を言いまして全部格安で来ていただいております。それからこういう規模の大きい学校でございますので、八十周年の記念行事が、昨日、今日始った計画ではなくもう五年来の緻密な計画と、三ヶ年交替での在校生の努力と、卒業生の並々ならぬご声援によって記念行事の事業が着実　み、それに従って生徒の勉学に対する　も発進されたものと私は外部にあって眺めておりました。ところが内部に入ってみますと、少なくとも完全を期する立場からはまだ問題はございますけれども、少なくともどこに出しても恥かしくないすばらしい校風であるということだけは、ご報告できるのではないかと思っております。勉強と申しますのは、国語とか数学とかそういうものに限らず、勿論スポーツ、芸能関係すべてを含めまして大変立派であると私は思っておりますが、今後益々生徒には厳しく努力精進するように激励して参りたいと思っております。

なおこちらに貼ってありますのは、海音寺先生の文学碑の碑文でございますが、私は生徒に対しこの文学碑を、私の見たところ〝良く学べ〟という意味に受けとれるが、どうか、また、法元先生の作製になる若人の像でございますが、その台石に書いてございます前々校長の川畑先輩の文章を読むと〝良く習え〟という意味にとれるがどうかと云っております。相対しております文学碑と、若人の像を、学ぶことと、習うこととという風に私は見ているわけでございます。真剣に学ぶべき時に学び、習うべき時に習え、こういう意味で、ここ一ヶ月半位ですが、時々大きな声で生徒に激励をしているつもりでございます。

とにかく学校の外観は、昔日の面影はございませんけれども、見る目で見ると昔日の面影を残しているものがあちらこちらに散見されます。校内がそうでありま　ます。入



ダンスではありません。懐しい友との再会にたददきしめたくて、友はヨカナー ヤッパイ！

もうかる話は？と深刻に話しこむ同窓生あれば、焼酎で不景気な気分を一掃したる同窓生もありパーティーは最高調!!

アラーいつもお若くいらっしてーなんてみえすぎたおせじはぬきでつき合えるのが同窓会のよしみというもの。ハイ！

口の銀杏の木は、第六回卒業生の方々の記念樹であると思っておりますし、楠とか石垣とか、細かく見ますと昔日の面影は、はっきりと出ております。今後こういうことを後輩の諸君にもよく教えて参りたいと思います。

前述のように生徒数は、一、五〇〇名でございまして、毎年卒業します生徒は約五〇〇名でございます。そのうち九十六%は大学への進学を希望しております。今後各方面の先輩の皆様に大変お世話になると思いますけれども、ひとつ厳しく叱咤激励をしていただきたいと思います。優しくだけでは駄目で、あらゆるところで生徒には非常に厳しいことを言っております。しかしどうか救いの手を時々出していただきまして、何とか助けていただきたいと思っております。私共もそれに堪え得るような卒業生を世に送るために頑張ってみたいと思っております。なかなか難しいことではありますが、公共教育をお預りしながらも、どうも、時々母校であり、後輩であるというのが出て参りまして、その辺のけじめをつけるのが大変苦しいわけでございますけれども、最後はやはり後輩という気持が濃厚に出まして厳しさも、時々ちょっと惑うことがございます。しかしその時は教頭先生やその他の先生に頼んだりしながらやっておりますが、やはりもっとしっかりしないと折角母校に帰らしていただきましても何のお役に立てないようなことがあっては大変申し訳ないと思っております。私も修業して参りたいと思っておりますので、今後ともどうかよろしくご叱責をいただきたいと思っております。またこのような機会には、是非私も参加させていただきまして、ご指導を仰ぎたいと思っております。

本日は大変お忙しいなかをご参加くださいましてありがとうございました。帰えりましてから、この模様を後輩の諸君にはっきりと申し伝えて、今後ますます勉強をするように指導して参りたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

○左記の方から、祝電をちょうだいしました。

鹿児島県県会議長　小里　貞利
参議院議員　久保　亘

半世紀たった今でも加治木が忘れられない

恩師代表　柴田先生

今日はお招きいただきましてありがとうございました。私は旧制の中学校時代にごやっかいになりました。

加治木のあの学校は、皆様にとっては非常に懐しいし、私にとっても、大正、昭和にかけて日高校長時代でございましたけれども、いろんな意味合いでお世話になり、人間を造って下さった意味において大変忘れ難い学校だと思っております。今日ここに参りまして、もう半世紀たつのですが、ここで当時教えた方々とお会いしますと、非常に懐しく思うのでございます。当時私は英語を教えておりましたが、今日お見えの方の中にも、私の英語を受けた諸君がいらっしゃいますが、私は教師ですから、英語を教えるには教えましたが何だか考えてみると、英語を教えることより当時若かったものですので、あのグランドを跳んだり、はねたりの方が何となく多かったような気がいたします。ですから、日高校長に〝君は英語を教えに来たのだろうが、運動をしに来たようなところもあるな〟というようなことを言われたくらい、私は生徒とよく遊んだものでございます。ですから、私にとって加治木中学いや、加治木高校は、半世紀たった今でも、私を迎えて下さいますし、また蔵王会の方々からもこの間お誘いを受けましたが、都合があって私は出席出来なくて、誠に申し訳なく思っております。こんな風で、いろいろのことを考えてみますと、半世紀にもなりますけれども、加治木という所が懐しく忘れがたいものがあります。また私が世帯を持ったのも加治木でございますものですから、五、六年前にお訪ねしました。そのうちまた行こうと思っております。

ただ今、校長先生のお話を伺いましたが、当時私がいた頃とすれば、いろいろな意味で大変発展したものだと痛感いたしております。この加治木高校が、今後も大いに栄えるであろうし、また皆様方のこの会も限りなく栄えるであろうと、私は確信しております。ここに、皆様方のご健康とご発展をお祈りして、ご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

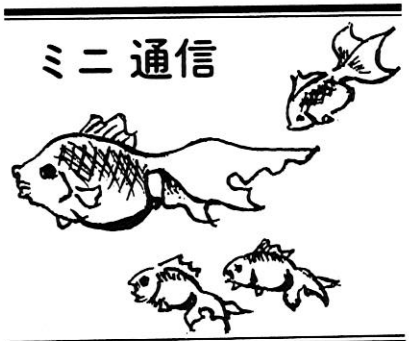
乾杯の音頭をとられる黒川清雄氏

黒川先輩の音頭で乾杯

総会の議事もとどこおりなく修了し、彦野すみ子副会長(女・昭一七卒)から閉会の挨拶があり、パーティに移った。(議事として五十一年度決算・事業報告、及び五十二年度予算・事業報告があった。)

パーティは、昨年米寿を迎えられたという黒川清雄先輩(中・明四十卒)の音頭で、母校の加治木高校と東京龍門会の繁栄を祝って一同が乾杯、米寿を迎えられたとも思えない若々しいハリのある乾杯の声はより酒を美味しくしたようである。テーブルには懐しい本格派のイモ焼酎あり、郷土料理ありで、会場のにぎやかさは一段と広がっていった。なお焼酎は日当山醸造㈱より寄贈があり紙面を借りて厚くお礼申しあげます。

ミニ通信



●みなさんから寄せられた返信用ハガキの通信欄より抜粋したものです。中は旧制中学、女は旧制女学校、高は高等学校数字は卒業年度を表わします。

■昨年は同級生の豊平金助君と卒業後六十六年振りに会って互いに健在を喜び合いました。今年は豊平君が水道橋能楽堂に出演し橋弁慶のシテを勤める熱演振りを見ました。後で楽屋で会って汗まみれの老友(優)の手を握りました。二度あることは三度あるというので次回を楽しみにしています。
(中・明・四十三卒)前田　稔

■東京龍門会の盛会を祈る先年帰郷の際鹿児島空港に向う途中高速道路より龍門滝を数十年振り眺めてなつかしい思いで一杯であった事を特記する。
(中・大・三卒)　中村直次

■去る四月二十一日の母校の八十周年記念同窓会に大正四年卒業以来二回目の出席、同期生と六十一年ぶりに会えると思って胸をわくわくさせていましたがたったの一人原口純充君だけでした。年はとっても積極的に世の中に出たいものです。
(中・大・四卒)松田　昇

■大正三年一月の桜島大噴火のとき、丁度午後一時からの教練を待つため運動場へ下りる階段に腰をおろしていた。空に雲もない暖い日であった。突然桜島の西側中腹にむくりと雲の如きものが湧いて上昇し、東側にも続いて同様のものが見えた。職員も生徒も全校挙げて海岸の突堤に向って駈けに駈けた。そのうち煙に包まれた桜島の底から石臼をひくような重苦しい音が聞こえ始め灰がふってきた。一人去り二人去り誰もその場にいなくなってしまった。
(中・大・五卒)秋山邦雄

■四年に亘る闘病(心臓が弱った)は生命を賭けたいくさだったが武運強く生きのびました。次の総会には是非出席して皆様方の御尊顔を拝し加中時代の話に一花咲かせたいものです。
(中・大・六卒)住安国雄

■学び舎を巣立ちして半世紀、遠い日の師やクラスメートに思いを馳せ、万感交々です。
(女・昭・七卒)鵜木しづ子

■鹿児島県揖宿郡山川町出身大正八年加治木中卒、郷里の小学校代用教員を振出しに教員一筋四十三年、最後の十二年間は東京都公立中学校長、東京へ出て来たのは大正十四年、当時赴任した小学校の教え子達で既に六十を過ぎた連中が数え年七十七になった。私の為に喜寿の祝をしてくれるそうで楽しみにしています。総合当日は他に会合がありますので出席出来ません。
(中・大・八卒)福島栄三

■教員生活を勇退し昭和三十七年から画塾を経営、洋画の指導に当り十五年、日展入選十余回
(中・大・九卒)豊　重一

■是非出席して郷土の皆様に挨拶をと常に思っておりましたが、今回も五月十五日から二十九日まで、日中友好の船の旅に家内同伴で出かけることになって残念に思っています。
(中・大・十卒)岩屋三男

■幹事の方々まことにご苦労様に存じ感謝します。折悪く黒部峡谷へ旅することになっておりまして残念ながら失礼します。みな様によろしくお願いします。
(中・大・十一卒)田中邦蔵

■老後を思い昨年子供達の住む千葉市へ来ました。病気療養中につき欠席します。
(中・大・十一卒)永吉秀志

■都合あって出席できず残念です。龍門会の事は存じていますが入会の機会なく失礼しています。入会したいので手続き等を御教示下さい。
(中・大・十二卒)折田久雄

■戦前は加中十三年度会を結成し、東京周辺在住の同期生が春秋二回位集まり歓談していましたが、戦後はお互い消息不明にて立消えとなり今日に至っております。龍門会なるものも初めて知りました。今回は社内会議のため欠席しますが、今後は出来るだけ出席したいと思います。会のご発展を祈ります。
(中・大・十三卒)川島益夫

■大正末期無能な中学生で学校にご迷惑かけましたが雄大な桜島、奇形のざおう岳を目の前に、奥深い荘厳な龍門滝など忘れられない青春時代の印象を、脳りに今日まですごし、老境に入りなおさらなつかしい加治木を想い出しています。東京龍門会各位のご健闘をお祈りします。
(中・大・十四卒)橋口喜夫

■現在スペインのアルメリアに在住しており、絵を描いております。スペインに三年になりました。
(中・大・十四卒)原田成大

■そろそろ過去を偲びたがる年に近ずきますが、心身の老いを少しでも防ぎたいものと、娘のような保母、孫の様な幼児相手の毎日です。効果の程はわかりませんがまあ楽しくやっています。諸兄のご健康と発展をお祈りします。
(中・昭・二卒)大八木敏夫

■皐月闘ともし火もなく古稀近し
思い出の冴えぬことのみ多ければ、学友(とも)の面のまばゆく見えん。
半世紀ぶりの再会、懐しくは候へど、既に遁世の身、接衆の煩に不堪、何卒不参の儀御宥恕願い上げ候。
(中・昭・三卒)田中教夫

■昨年宮崎県で公務を定年退職してこちらに参りました。東京龍門会に入会して力強く感じております。よろしくご指導くださいますようお願いします。
(中・昭・九卒)町田正信
(女・昭・十七卒)町田澄江(旧姓出)

■皆さんにお会いしたいと思いながらいつも失礼しております。平均寿命70才以以といいますから、まだお会いする機会はあると思います。近くに住んでいました小生の兄で飛松英助(昭三卒)は四月十四日他界いたしましたのでお知らせします。
(中・昭・四卒)川原義一

■旧海軍、終戦後千葉県銚子市で漁船製造、海上自衛隊、退職後住友精密工業で飛行機のプロペラ、脚その他製造事業、60才を越えて更に現在住友商事で同じく飛行機関係の仕事で木更津土浦、船橋等をとび歩いて至極健康、感謝の日々を送っています。小生の近所に同期の川東守敏君がおられます。
(中・昭・七卒)瀬戸口紀夫

■東京龍門会も世話人の方々のご努力により年々盛会になって行きますことを心からうれしく思います。特に私等地方にあるものにとっては心のかてとして、この会のあり方を切望しております。ただ勤めておりますものにとりまして仲々出席出来ない日程もあり残念でなりません。欠席者に対して、当日の会の様子でもお知らせ願えれば有難いと存じます。本会の御発展を心から祈ります。
(中・昭・九卒)河野辰男

■40年ぶりに帰郷し、80周年記念式典に出席、幾十年もの風雪に堪へた校門、大谷石、スタンドの楠の木は暖かく迎へてくれた、有難う。
(中・昭・十二卒)永野俊雄

■病気加療中につき欠席させていただきます。皆様によろしく。
(中・昭・十八卒)松下千佳良

■加治木中学の楽しい思い出はと聞かれれば躊躇なく敬愛学寮の二泊三日の起き臥しと答えるでしょう。校門を入って左側に、昭和十五年頃完成し20年の空襲まで短い間の人々だけの思い出になってしまった。復興されることを望むものの一人です。
(中・昭・十八卒)浦野八夫

■母校80周年式典に出席したいと思っておりましたが一足先に四月春休みを利用して15年ぶりに加治木の土

を踏みました。ぬけるような青空、桜島の海の色に初めて訪れた子供もおどろきレンゲのじゅうたんの上をかけまわって、良きふるさとの地を楽しんでまいりました。同窓生の変らぬ前進をお祈りします。

（高・昭・二十九）殿村圭子

■去る五月二十三日夜、第八期生のクラス会を、新宿三井ビルの55階で開催しました。当時の担任上原実先生（現宮之城農高校長）を迎え、男女20名近くの参加者があり盛会でした。

（高・昭・三十一卒）武田憲昭

■皆様にはご無沙汰致しております。ご健勝のことと御拝察申しあげます。私にとりましては赤貧の中を3ケ年、十キロメートルを自転車通学で通しました高校時代が最も厳しく記憶に残る時代でした。お蔭様で在勤十三年余り、現在を事なく満足して精勤しております事を深く感謝いたしております。

（高・昭・三十四卒）満田泰啓

■昨年今年とあいにく五月下旬の土曜日は地方出張のため出席できず残念です。一昨年出席させてもらった時食べた〝きびなご〟の味が忘れられません。ご盛会を祈ります。

（中・昭十九卒）横山芳文

■細々と薬種商に励んでおります。

（女・昭・十九卒）江原洋子（旧藤田）

■南国の加中健児が学徒動員先の雪国富山県下で迎えた卒業式の想い出も、三十有余年の昔のものとなりましたが、母校創立八十周年記念の喜びの年に、東京龍門会の皆さんと一堂に集り祝盃をあげうることを心から感謝しています。

（中・昭・二十卒）吉尾政広

■学徒動員先の卒業後、三十一年振りの同僚に会えるのを楽しみにして居ります。

（中・昭・二十卒）松元　昭

■皆さんに是非お会いしたいのですが、毎年仕事の都合でどうしても出席できず誠に残念です。（日曜日だといいのですが……）

（中・昭・二一卒）野中隆一郎

■主人の仕事の関係で鹿児島と東京を往復しています。東京にいる機会が少ないので、いつもみなさまにお世話になるばかりで申しわけなく存じます。

（高・昭・二十五卒）久保宏子

■在京九年、鹿児島今を忘れぬよう、日々の会話に使用すべく努力しています。

（高・昭・二十七卒）浜田孝夫

■去る49年国土庁発足に際し同庁へ出向しておりましたが、昨年夏二年間の出向を終え大蔵省へ帰任しました。銀行局審査課長をしております。

（高・昭・二十七卒）小田原定

■三男義博の母前田カス（75才）です。生家は姶良郡帖佐町鍋倉の前田製材所です。当時の知人をあまり覚えておりませんが、もし知人の方がおられましたら、足立区千住二の三九宛ご連絡くだされば幸いです。

■本年四月一日から鹿児島県の教諭となり、現在東谷山小学校に勤務しています。

（高・昭・四十三卒）山住哲郎

■家庭に落着くにしたがいまた子供が成長するのを見て、当生時代を想い、教育のむずかしさを感じているこの頃です。

（高・昭・四二卒）橋本ちづ子

告知板

東京龍門会の会員数は？

去る五月総会開催当時の会員数は一、二一九名（うち女子四一一名）ですが、過般、母校創立八十周年記念に際し作成された同窓会名簿によれば、関東在住の同窓会員は、二、二八四名（うち女子八四三名）で、前者に比べ約二倍の多数に上っております。その内訳は、下表のとおりで、特に高校の現会員数は半数足らずであり、大きな開きがあります。

この会員が、全員関東に現住されているかどうかは定かでありませんので、今後幹事の皆さんで手分けして、その状況を確認することにしております。そして、会員の現況をしっかり把握した上で、来年度第三回目の東京龍門会名簿を作成する予定にしておりますので、今後ともよろしくご協力をお願いいたします。

区別 / 名簿・現別	旧中学校	旧女学校	高　校	計
同窓会名簿上の会員(1)	411名	204名	(639) 1.669名	(843) 2.284名
現会員 (2)	313	136	(275) 770	(411) 1.219
差引 (1)−(2)	98	68	(364) 899	(432) 1.065

（注）（　）内は女子会員再掲

編集後記

▲多くのすぐれた人物を輩出し80年もの歴史と伝統をもつ加治木高校に学んだことの喜びと誇りを、今さらながら痛感し〝モチットキバランナイカン〟と思う今日このごろである。▲また東京龍門会も発足以来5年目を迎えたということで、そのあゆみについては安田清広副会長が創刊号会報で書いておられる通り、読まれた方も多いかと思うが、先輩諸氏のご尽力の賜物として感謝の意を表している一人である。▲というようなわけで今回（第2号）発行の会報は、母校の創立80周年記念に因み開催された東京龍門会の総会からその概要を特集したつもりである。テープによる収録であるため、多少不備のあるところはご容赦願いたい。▲総会にはやむなく出席できない方が多かったが、寄せられた返信用ハガキの通信欄を拝読して、みなさんそれぞれお元気でご活躍中であることを知った。なかには病気で療養中という方も二・三お見受けした。早期ご回復を祈るばかりである。▲寄せられた通信は「ミニ通信」という形で掲載した。紙面の都合で全部の方をというわけにいかず、多くを割愛し一部の方の掲載にとどまらせていただいたことをお詫びしなければならない。▲会報の発行という大事な任を仰せ仕りながら、何かと私事で時間をついやしおそくなり、それに至らぬ編集で終り迷惑かけ本当に申し訳なく思う。写真で協力いただいた竹田茂隆氏、そして会報の制作で一方ならぬお世話になった南川一郎氏には厚くお礼を申しあげたい。▲まだまだ暑いです。暑さには慣らされた南国の人間とはいえ、おくればせながらみなさんご自愛のほど、残暑お見舞い申しあげます。（K・H）

☆　☆　☆